

# ひたすら社会悪と戦い続けた



平沢勝栄  
自民党衆議院議員

私が室伏氏に初めて会ったのは1980年代後半で、私が警察庁保安課長の時だ。当時、遊藝業界の経理の健全化目的で第三者管理のプリペイドカード導入が検討されていた。しかし、この件で業界は大きく揺れ、業界の一部は当時の社会党の政治家と結託してさまざま反対運動を繰り広げた。その後、この問題は国会の予算委員会でも集中審議が開かれるまでになった。室伏氏はこの問題の取材で私のところを訪れたのである。

当時、既に室伏氏は「社会や権力の不正態着追及の第一人者」だった。その氏が反権力、そして反警察のオビニオン雑誌「朝日ジャーナル」誌の取材で来られたのである。警察に対しては相当批判的な記事になるだろうと覚悟した。しかし、室伏さんは私に会うなり「警察が正しいか否かは取材してから判断する。正しいと判断した場合、例えば相手が悪者であろうと私は全力で応援する」と言われた。多くの雑誌記者に会ったが、ほとんどが先に結論ありきだった。しかし、室伏さんは違った。その後署名入りで「朝日ジャーナル」誌に出た記事は勿論警察に対する批判も含まれていたが、警察の意図するところは正しく伝えている。信頼できる誠実な記者と知り合えたことを喜び、以来、室伏さんとの付き合いが始まった。

面でも活躍された。カジノ推進化運動もその一つである。私は英国大使館に三年間勤務した。ロンドンではカジノでも有名で、日本からのお客を連日のように案内した。カジノは楽しい娯楽場、そして社交場でもあったから誰もが喜んでくれた。勿論カジノで勝つのは難しく、私の場合は小遣いほどとどくを使い果たした。しかし、時間が経つのを忘れるほど楽しかった。その後、世界の多くのカジノを訪ねる機会があったが、どこも日本人でいっぱいだった。今世界多くの国にカジノがあるが、日本では非法だ。そのため日本では、暴力団が介入した不法カジノがかなりはびこっている。それなら、税収、雇用そして、観光客誘致、暴力団の資金源排除などの目的でカジノを日本でも合法化したらどうかと考えるようになった。勿論暴力団の介入や客がの

めり込む、あるいは風紀が乱れるなどの問題があることは否定しない。しかし、これらは別途、対策を講じればよいだけのことだ。例えば利用者は外国人、あるいはホテル宿泊者に限る、あるいは収入の一定割合だけプレイさせるなど方法はいくらかもある。こうしたことを室伏さんとは語りあい、その後国会にはカジノ合法化のための超党派の議論ができた。その室伏さんは残念ながら鬼籍に入られた。志半ばで旅立たれたわけで残念無念だったと思う。

ともかく室伏さんはひらすら社会悪と闘い続け、社会の浄化に大きな功績を残された。ご冥福を心からお祈りするとともに、今後室伏さんの志を実現するため国会の場で公明正大な社会の実現、そしてカジノ合法化にも全力で取り組んでいきたいと思う。

2002年10月17日、センチュリーハイアット東京（現ハイアットリージェンシー東京）にて、日本カジノ学会主催の勉強会兼懇親会が開催された。室伏先生と親友のこの最初の出会い。ちょうどその日は、石原東京都知事がお台場カジノ構想を発表し、都庁展望台で模擬カジノを開催した日でもありました。翌年、私も日本でカジノの夜明けは近いと信じてスクール開校のための準備に着手し、2004年4月に日本カジノスクールを開校しました。日本カジノスクールの入学式典で、室伏先生には、「昔から明るい夜はない」といいます。日本国は、世界の趨勢に取り残された形でカジノを法的に禁止している唯の先進国です。カジノに関する限り、日本は今、まだ夜の暗闇をさまよっているのです。しかし、時代はめざましく変わります。暗い夜も必ず開けて朝がくるのです。朝が来て様相が一変する時代についていけない者は負け組みとなり、夜の暗いうちから、時代を先取りした者だけが勝ち組になるのは世の習い。夜明けのこと。東雲が動く、ともいいます。その東雲が動くともなく動く、晩雲の中で、新生カジノ産業

# 室伏先生、ありがとうございます。



中西昭憲  
日本カジノ健康保養学会代表

室伏先生との最初の出会いを忘れることができません。先生に初めて私が構想していたカジノ健康保養システムを聞いていただいたとき、先生は「君の話に大義がある」と、感想を述べてくださいました。その言葉に励まされ、以来機会があるごとに「街に見合ったカジノは、地方活性化の切り札になる。カジノ収益金をきちんと還元すれば、街の健康度は上がり、介護保険・健康保険の支出を引き下げるのができる」と訴えてきました。以来8年が経ちます。カジノ設立の法案が、毎年国会で承認されると言われながら、未だ審議さえ行われません。

この間、マカオのカジノはラスベガスを抜くほどに大躍進をし、シンガポールの新しいカジノも大きな話題になりました。隣の台湾でもカジノ建設が決まりました。日本で最初にカジノが作られるだろうと言われてきた沖縄は、基地問題に揺れ国際観光競争から遠く後れを取るような気配が漂い始めています。

このよう健康増進や回復のための環境の実現は、日々の生活への刺激と生活習慣病・介護予備軍の人達への総合回復力に役立ち、毎年伸びる社会保険費1兆円に対して何らかの歯止め効果をもたらすものと思えます。先生が述べられた大義のためにがんばります。

# 室伏哲郎先生を偲んで

でも一番大切な人材を養成する日本で初めての教育機関が誕生したのです。今日出席のあなた方は勝ち組への道を選んだわけですが、これら、ディライアー技能の研鑽に励んでください」と激励していただいたことが、未だに新鮮な記憶として残っています。

同年11月の日本カジノ学会主催の記念パーティ「日本カジノ創設の曙」において、私に、カジノの普及と啓蒙に人財力として、猪瀬直樹東京都副知事に次いで史上2人目となる「カジノ・オブ・ザ・イヤヤー」という栄誉ある賞を与えていただきました。

市となり、シンガポールでもカジノが開業し、室伏先生がおっしゃったように日本は完全にアジアの趨勢に切り残されてしまいました。当時から、日本のカジノの必要性を唱え、多くのカジノ専門書や日本初のカジノ専門誌「カジノ・ジャパン」を発行し続け、カジノに対し閉鎖的な日本に、正しいカジノ産業の実像を示した室伏先生の功績に対し敬意を表したく思います。私は必ずや日本でのカジノの夜明けを実現してみせます。室伏哲郎先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

# Katsuei Hirasawa



大岩根成悦  
日本カジノスクール校長